

「帝国海軍に浸透していたバイブル道・真理・いのちなるメシア」

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

こちらに来る前に、綺麗なお手紙を頂いて、ちゃんと差出人の名前が書いてあったので読んで来ました。差出人がない手紙はロクなのがないんですよ。クレームがあるやつは自分の素性を明かさない事が多いけど、ちゃんと名前が書いてあるので開けてみたら、和紙の便箋で、小筆書きの活字体でプリントアウトされていたんです。非常に丁寧な感謝のお手紙。

・・・私はタクシーの運転手をしておりました。昨今の経済状況でお客さんが少なくなり、待ち時間が多くなって、そのたっぷりの待ち時間、車内でずっと YouTube を聞いてました。そして、心に蓋をして来た事を思い出しました。高校時代、親友がクリスチャンで、幾度となく「神があなたを造ったんだ。神があなたを愛しているんだ。神はあなたに素晴らしいプランがあるんだ。あなたは救われるべきだ」と聞いて来たけど、チンプンカンプンで反応する事ができなかった。それから色々な働きかけがあったと、今は分かるけど、その時はよく分からなかった。

だけど、聖書のメッセージをストレートに聞くようになってから、「神は私を呼んでおられるのだ」という事が分かり、どうしても真(まこと)の神様のところに戻りたい、という思いを押さえる事ができなくなりました。それで私は婚約者に、「私はクリスチャンになります」と言ったんです。どんな反応するかな？(お付き合い始めた時はそうじゃなかったから。突然、クリスチャンになったと。)そしたら彼女は「あなた、クリスチャンになるんなら、教会に行かなきゃダメでしょ」と、教会を捜して来てくれました。そして、無事洗礼を受け、クリスチャンとなり、牧師にも仲良くしてもらっています。私の今の最大の祈りは、彼女が救われる事です。・・・というお手紙でした。

それを読んで、やる気が出て来ましたね。いや、いつも、やる気あるんですけど、夏暑いと疲れるのでね。なんか元気になるというか、嬉しくなるというか。

私はクリスチャンになる前、自分を喜ばせる事が人生の喜びだと思っていました。だから自分が好きな事をやる。好きな音楽を聞き、好きな楽器を演奏し、好きな人と付き合い、嫌な奴とは会わない。好きな事を見出して行く事が、幸せを見つけて行く能力に違いない。好きな事・好きな事・好きな事。自分を喜ばせる事が自分を満足させる事になる。

クリスチャンになって、ちょっと変わったかなと思います。私が今一番深い満足を得るのは神が喜ばれる事です。神様が喜ばれる事を成し遂げるために、私のような小さな者を使ってください、その結果をご覧になって、ニッコリ笑っておられるというのをイメージすると、何とも言えない喜びが湧いて来るんですよ。自分を喜ばせる事も喜びです。でも、深い満足を伴う喜びとなると、全宇宙をお造りになり、私を救い出してくださった神が喜んでくださっている事に参加している時、自分も喜びで満たされるんですね。

全宇宙を造られた偉大な大いなる神様は何を喜ばれるかという、神から離れている人が悔い改めて戻って来る事を、何よりも喜びと感じられる方なんです。だから、誰かがキリストのもとに帰るお手伝いが出来たという事が分かると、すごくやる気出て来ますわ。今、もうやる気満々。やる気満々やけど、ちょっと、これ(マスク)蒸れますねん。蒸れるんですよ。

特別あつらえで、呼吸が苦しくないようにやってくださったんですけど、もうね、はよ終わって欲しいという感じがします。でも、こんな状態の中で、神様の働きが進んでるんだなと思うと嬉しくなりました。

今日は、キリストご自身が十字架にかかる前夜に、弟子たちに語ったとっても大切なメッセージ、たった1節ですが、イエス・キリストの福音をズバリ表している箇所なので、そこを一緒に考えたいと思います。

ヨハネ 14:6

イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」

わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。これはとても大事。

父とは誰か？全宇宙を造られた真の神様を聖書は父と紹介しています。

そう聞いたからといって、神様は男性だと思わないでください。神様には性別はありません。

男とか女とか女神とかはないんです。

ではなぜ父と言うのか？聖書が紹介している神様の働きを考えるには、中東の文化圏での父の役割を考える事が、一番イメージし易かったからだと思うんですね。

目に見えない神様をどうやったらイメージできるか？目に見える何かを通して、それをたとえとして知る事によって「そうだろうか。」「こんなだろうか。」と想像する事ができるんですよ。

皆さんにとってお父さん、どんな方ですか？“お父さん”と聞いた時、いいイメージしか湧いて来ないという方、ちょっと手を上げてください。約半分。

もう半分の方については聞きません。そういう事、あんまり突っ込んで聞かれるのは嫌ですよ。

色々な親子関係があるけど、私の理想の父像は『大草原の小さな家』に出て来るチャールズです。

見た事ない方はよう分からんと思いますが、ええ番組ですよ！NHK もたまにはええ事をするという感じ。

頼り甲斐があって、何でも出来る。家も自分で建ててるんです。逞しくて・物知りで・陽気で・励まし上手。

バイオリンを弾いて・妻を愛し・子供たちを育み、もう言う事なしや。

だからドラマなんだ、となるんですけど。でも、あれは実話を基にしてると言われてますよね。

中東では父は権威者。口答えとか、そんなん出来ないんじゃないですか？

父は権威者・権力者・知恵者。そして一族の族長・最高責任者です。

しかしそれだけでなく、“父”という言葉に注目したいのです。

ヨハネの福音書はギリシア語で書かれていて、“父”は“パテル/パテリ”。

“パテル”から“パトロン”という言葉が生まれました。

パトロンは、例えば、芸術家が初めは売れっ子じゃないから、生活するために芸術に専念できない。

食べるために頑張らなきゃならない。それで才能が枯れてしまう。

そうではなく、お金持ちのパトロンが、育てたら将来偉大な作家になると見込んだ者の生活一般の面倒を全部見るんです。

相撲のタニマチと一緒にですよ。力士に後援会が付いて、色々世話してもらいましたよね。

タニマチって、大阪の谷町から来てるんですよ。谷町の大金持ちが最良の力士のパトロンとして全部面

倒見たから、そこからタニマチという言葉が。まかり間違っても田辺/タナベではないという。
つまり、父という方は賢い方。何でもご存知の方。そして、何でも出来る力をパトロンとして人間のために惜しみなく使っておられる方。

昨日8月6日、広島原爆記念日でしょ。我が家では私も家内も黙祷しました。ちょうど投下された時間。
1分間の黙祷、鐘を10秒毎に鳴らす。ゴーン。あれ、やめてほしい。ほんまに。
静かに物思いにふけりたいのですが、とにかく黙祷しました。
75年前、3/4世紀前に日米戦争があったんですね。もう、戦争を知らない子供たちが殆どじゃないですか？あと25年経ったら戦争終わって100年。誰も分からへんみたいな。

今日司会してくださっているウツノミヤさん、先週、ご夫妻と一緒に彼女の田舎に行ったんです。
この方、新潟出身や。なんか違うでしょ。なんか大阪の人じゃないよ、この人。地球人？
そこで、山本五十六（やまもと いそろく）記念館に行きました。
山本五十六（1884-1943/M17-S18）って、連合艦隊最高司令長官ですよ。太平洋戦争の時の。もうすごい。
お父さんが56歳の時に生まれました。で、五十六さん。

展示物を見て行くと、彼がアメリカ留学時代に買い求めた『新約聖書（詩篇付）』があるんです。
それがボロボロになってる。遺品として飾られていました。
実はこの方、小学校の時、日曜学校に通ってたんです。
アメリカから来たニューエル宣教師から聖書のお話を聞いて、幼い時から聖書に親しんでいたんですね。
江田島の海軍兵学校に入ってから、肌身離さず聖書を持っているので、「なぜ敵国の宗教の本を持っているんだ?!」と同期から非難されるけど、「真理に国境はない！」と激論になっている。

よく聖書を読んだ方であると言われていたんですが、彼の実のお兄さんが牧師なんです。
魚河岸のあった東京の築地（つきじ）、築地教会で牧師をしてたんですが、「東京には教会がいっぱいある。
日本には教会がない所もたくさんある」と言って、教会が一軒もないという千葉県東金（とうがね）に、
一から教会を建て上げるために開拓伝道に行くんです。
そうやって苦労して出来た教会に、山本五十六はしばしば出かけていました。
お兄さんが牧師で、そこで語られているのは般若心経じゃないですよ。当然聖書の話聞いたんです。

戦争中、軍事行動をする時、天皇の前で五相（ごしょう）会議が開かれました。
総理大臣・陸軍大臣・海軍大臣・大蔵大臣・外務大臣の5人が揃って、重要な軍事決定をする会議。
最も重要な官庁のトップ5人が、昭和天皇の前で軍事行動について協議する場です。

海軍省で一番偉いのは海軍大臣で米内光政（よない みつまさ/1880-1948）。聞いた事あるでしょ？
2番目に偉いのが次官。それが山本五十六（1884-1943）。
3番目が海軍軍務局長。井上成美（いのうえ しげよし/1889-1975）。

この3人が実に良いチームワークで、一生懸命に取り組んだ事がありました。
それは、日独伊三国同盟の阻止。陸軍からは「邪魔するな!」と。
やがて、山本五十六は暗殺されかかり、それで、軍事政治から外されて現場の司令長官になりました。

実は、井上成美は若い時に洗礼を受けているクリスチャンなんですよ。
ナンバー2の山本五十六はお兄さんが牧師。

米内光政は聖書と関連する情報は私は知りませんが、日独伊三国同盟に反対した 3 人の内の 2 人が、聖書と非常に大きな関係があったんですね。

三国同盟をやった事によって日米戦争が始まって行くんです。今日はその詳しい説明はしませんが。

何を言いたいかというと、こんな事、普通の歴史の本をなんぼ調べても出て来ないんですよ。今の現代日本人は「軍国主義の時代の海軍で、戦争の事しか考えてない」みたいなステレオタイプを植え付けられてるんですが、決してそうではない。彼らはエリートです。

そして、自分のイメージでは「軍の最高峰のところまで、聖書を知っている人なんかいてないわ。聖書の話なんか伝わってないわ」と思い易いけど、歴史を詳しくひも解くと、「えっ！こんなところにもクリスチャンいたんですか？」「こんな風に聖書を聞いていたんですか！」「この人、こんな巡り合わせで、こんな風に聖書を捉えてたんですか！」

時々「私の先祖はクリスチャンじゃなかったから…」ということ。いや、委ねてください。神様は人間よりもはるかに賢いですよ。人間は人間の目の範囲で判断するしかないんです。でも神様は、人が見ていない全知全能の力を働かせて、日本にも今まで働きかけて来られた方だし、タクシーの運転手さんにも働きかけて来られた方だし、今日ここに来てくださっている皆さんお一人ひとりに、今まで語って来られたのではありませんか？この方は、あなたにとってもパトロンなんです。支援者です。あなたが永遠のいのちを持つようにと応援のエールを送り、働きかけておられる方が天の父なる神様なんですね。

ところが、「わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」

わたしはイエス・キリスト。

イエス・キリストを信じていない人は、父のみもとにいない人なんだ、と言っているのです。

イエスを通して父のみもとに行くことができる。

という事は、イエスを信じていない人は父のもとにいないのだ。

父との関係を切っている状態・父のみもとから離れた状態を、聖書は罪と言っています。

私たちが考えている罪は法律を破ること。

でも聖書が言う罪は、祝福の源である父なる神様に背を向けて、神なんかいないという人生観・或いは、たとえ神がいたとしても、私とは関係ないという人生観で生きることなんですね。

父のみもとから出て行った人たちによって造られている世界を“世”と言います。

ギリシア語で“コスモス”。

神様のもとから出て行き、神と関係を切った人々によって構成されている世界を“この世”と言います。

時々尋ねられるんですね。「高原さん。神様が愛やったら、なんでこんな事が起こるんですか？」

「私の妻は真面目で・親切で・立派で、誰に対しても良いことをしてあげたのに、なんでこんな変な病気に罹ったんですか？」「真面目一筋でやって来たのに、なんでこんなに酷い目に遭わなければならないんだ？」この世界には、説明付かない不条理なことってありますよ。

なんで悪を行っていながら、のうのうとのさばっている人がいるのか？と思ったら、善良な人なのに酷い目に遭っているケースがある。

悪は罰せられず繁栄し、善は報われず酷い目に遭うという事が、なんで起こるんだ？

神様はどこに目を付けてるんやと。なぜこんな不公平な事があるのかと尋ねられるんです。

その答えは、この世界は“この世”だからです。ここは神の国じゃない。ここは天国じゃないからです。祝福の源から離れた人たちが「神なんかいない」という世界観で造っている世界なので、神様が願っている願いを損なうような事が横行するのは当然なんですね。

この世界の出来事をもって、神様の性質を類推しないでいただきたいのです。

世の中の不幸は神のせいではない。

C・S・ルイス (1898-1963)、この人の本はたくさん持っているし読んでいるのですが、『キリスト教の精髓』、ホンマにめちゃくちゃ面白いです。読書がお好きな方には是非お勧めしたい。非常に読み易いです。

C・S・ルイスもラジオ聖書メッセージ番組を持っていました。『聖書と福音』 ちやいますよ。

『ルイスと福音』、どうか知りません。

軽妙洒脱な座談の名手でもあった C・S・ルイスがラジオで、「神がおられる」ことを「神なんかいるのか?!」と言うリスナーに向かって説明するんですが、「いるんです！」そういう野暮な説明じゃない。賢いから。「神なんか要らんわ」と思っている人が、つい「ふんふん。ふんふん」と納得している内に「あ、ほんまや」となるような、そんな話やねん。これで、ちょっと読みたくなっただけじゃないですか？

そういう本のシリーズで『偉大なる奇跡』という本の中に、「この世とは一体何なのか。これはクリスチャンにも言える事だが、この世界をホテルだと思って生きている人は『サービス悪いな、この世界は!』と不平不満を持って生きるだろう。ホテルは接客業だから、滞在者に対して『もっと愛想良くしろよ。美味しいもん出せ。いつもエアコンディションは良いようにしとけ。もっと便利に取り計らえ』みたいに。」

ここはホテルじゃない。じゃ、なんや？ 刑務所やっちゅうんですよ。

皆さん、ご存知でしたか？ 刑務所にいたということ。

刑務所とは何か？ 囚人が自分の罪の酷さ・自分の過ちに気づくための場所。

ここは矯正される場所。矯正は歯の矯正の矯正。曲がっているものを真っすぐにするというか。

ここはトレーニングセンター。

ここ刑務所やと思ってたら、刑務所の割には、時々すごく親切な人が現れるんじゃないですか？

時々すごく丁寧な人がいたり、時々すごく助けてくれたり。

ホテルだと思ってたら、少々助けてもらっても「あたり前や」となるけど、刑務所やと思ってたら「刑務所やのに、えらいサービスええわ」って。

「この地上で『私は罪人なんだ』というのを、本当に分からせるための場所と捉えたらどうだろうか。」

そうなんです。天国ではない。だから、この世界で完全な満足を見出そうとしても、それは無い物ねだりで、間違っただけを求めているという事になるんですね。

父のみもとから離れている世界なので、「なんで祝福がないんだろう？ それは、祝福の源である父から離れているからだ」と気づかせるための世界なんですよ。

ここで完成して・完結して・満足したらダメなんですね。

父のことがすっかり分からなくなり、父のみもとに行くという渴きすら失ってしまうような人間に対して、神は呼びかけておられる。その神が、この世界に遣わした救い主がイエス・キリストという方です。イエス・キリストはご自分の働きを3つのたとえで、ここで紹介しました。

1. わたしが道である。“道”

道は目的地に繋がっているもので、そこを通るなら、必ずゴールに辿り着く事ができるんですね。どうやったら、父のみもとに辿り着けるのでしょうか？イエス・キリストを受け入れるなら辿り着くんです。

アフリカのタンザニアにセレンゲティ国立公園という大きな国立公園があります。四国の8割くらいあるんじゃないですか？ふと見上げるとキリマンジャロが見えるという。いいねえ。“セレンゲティ”はマサイ族の言葉で“果てしなく広がる平原”という意味。ユネスコの世界遺産です。何が美しいか・何がすごいかというと、動物園の人気者がズラリ勢揃いしている国立公園。ライオン・象・キリン・シマウマ…出てけえへん。サイ・ヌー…他に色々。出てけえへん。とにかく、動物園で子供たちが「見たい！」という人気者の動物が、檻の中じゃなくそこらを歩いている。

今は入れません。コロナですね。だけど一時は、アウトドア派・自然大好きのアドベンチャータイプの方々は世界観光旅行で絶対ここに行きたい。そして、行きたい人は予習するんです。私たちがイスラエルによく行きます。何十回か行きましたが、その前に必ず予習するんですよ。出発前にどれだけ予習したかが到着後の収穫に直結するので、前もって勉強して勉強して、そして行く。

セレンゲティ国立公園を訪問する人たちも前もって勉強して行くんですが、ガイドがマサイ族。マサイ族ってすごい跳躍力で、お腹出てる人いてへんわ。ホンマ。槍持って。そのマサイ族がガイドで案内してくれるけど、予習していたルートと違う道をどんどん行く事がある。道はこっちにしかないのに、道のない山の方・草原の方にずっと入って行くので、「あの一、間違っているんじゃないか…。そっち行ったら、もう道がないんじゃないんですか？道、こっちじゃないですか？」

そうしたら「私が道だ」と言うそうです。「その道通っても、野生の動物と会えないよ。」「どのルートを通ったら、どの動物に出会えるのか。水が無くなったら、どこに井戸があるのか。怪我をした時、癒す薬草はどこに生えているのか。ゴールに行くための全ての知識は私の中にある。だから、私について来なさい。私が道です。」

父のみもとに行くために、どうしたらいいのか？

しなければならない事は、全部イエス・キリストが代わりにして下さるのです。なので、イエス・キリストを救い主として信じる事が、道を歩んで父に至るという事と同じなんです。イエスが道です。

2. わたしが真理です。

真理（アレーセイヤ）の反対は何でしょう？偽りですよ。

今はフェイクニュースが多くて多くて。この間NHKで、SNSで飛び交っている情報の中で、真実は10%~20%で、残りは確認できない事。全部嘘とは言いません。確認できない事。裏が取れてない事。その中にフェイク・偽情報・嘘情報が、いっぱいあるんじゃないですか？

こんな言うていいかどうか知りませんが。うちの近所に南田辺商店街があるんですよ。

その自転車屋のおじさんがコロナで亡くなったという情報があったんです。

私、その自転車屋でよく空気入れさせてもらった事あって、確かにずっと休んでる。

だから、その隣のお店のシャッターが開いたので聞いたんですよ。

「ここで自転車屋やってた方、どうなったんですか？」「知りません。そんなん。」言われてね。

この間通ったら、やってはりました。「あ、生きてる」みたいな。

これは生き返ったんじゃないくて、死んだという情報がフェイクだったという事なんですよ。でもね、ホンマに信じてました。あんまり長い間シャッター閉まってたから。

もうフェイクが多いですよ。その中で本当の本当のこと・本物の本物、それはイエス・キリストである。真理というのは“答え”と言ってもいいかも分かりません。

目には見えない神様って、どんな方ですか？「それはわたした。」目に見えない神はイエス・キリストのような方だ。

本物とは何ですか？「わたした。」人間が人生の中で・哲学の中で、探し求めている答えの全部はイエスの中にある。答えはイエスの中にある。

本物に触れるというのは、本当に人間を謙遜にするのではないかと思います。

ドイツの画家アルブレヒト・デューラー（1471-1528）はクリスチアンの画家で、ハンスという親友がいました。2人とも小さい時から絵が得意で、絵で食って行こうと同じ志を持って成長していくのですが、本格的な画家になるためには美術学校に行かなければならない。今も昔も美大はお金がかかりますよね。彼らが住んでいたのはニュルンベルクですが、そこには良い美術学校がなかった。

当時ヨーロッパで一番良い美術学校は、イタリアのベネチアにあったんです。

絵を学ぶために留学、そんな贅沢な事は出来ない。

だけど、このまま「なりたかったなあ」と2人とも夢が終わってしまうのは勿体ない。

そこで、ハンスがデューラーに提案しました。「どちらか1人がまず留学する。もう1人はその留学費用を稼ぐために働く。留学が終わったらバトンタッチでその人が働いて、今まで代わりに働いてくれた人を美術学校に行かせる。代わりばんこで、両方とも美術学校に行けるようにしようよ。」「いい考えだ。」

問題は、どちらが先に美術学校に行くか。この2人ね、2人とも「是非、君が先に」と言ったんです。「俺が先でしょ！」じゃないんですよ。「是非、君が。」「君が。」お互い譲り合って、話が中々まとまらない。最終的にハンスが「絵を見たら、君の方が上手いじゃないか。だから早く大成できるじゃないか。君が先に行ってくれ。」

それで、デューラーがベネチアに行きました。2年の予定ですが、2年なんてあっという間。

絵の修行は2年では到底足りない。もう1年延長・もう1年延長…10年経ったんです。

その頃には、ベネチアでアルブレヒト・デューラーの名前が売れるようになり、やって行けるようになって、錦の御旗で故郷のニュルンベルグに帰りました。

いの一先に迎えたのがハンスです。しかし、彼を見た時、デューラーは絶句しました。

実は、ハンスは仕送りのために賃金の良い鉄工所で働いていて、何度も何度もハンマーで自分の指を叩いてしまったんです。なので、指が変形して筆持てない。

でね、「僕は今この仕事に満足しているから、行かなくてもいい」って言うんですよ。

「約束じゃないか！」と言うんですけど、「いや、僕は君にあって、絵で成功したと思う。アルブレヒト・デューラーという画家が誕生する事に僕は関与した。君の成功は僕の成功だ。」

だけど、デューラーは責められるんですね。「そうは言っても…」何か居心地の悪さを感じていたんです。ある時、ハンスの家に行って部屋に入ろうと思ったら、彼が祈っている。

「主よ、彼は今心責められて、私の事で気に病んでいます。こんな事で、彼の能力が発揮されないで終わってしまう事がないように、どうぞ彼を励ましてやってください。」

なんにも言わずにリターンして帰りました。

翌日、ハンスの手を見て「君、画家になってくれないなら、僕のモデルになってくれ。」

そして、『祈りの手』という手のモデルをやってもらうんです。

自分の成功のために、我が事のように一生懸命に祈ってくれる友の本物の・真実の友情に触れた時、「それを絵に残しておきたい」と思って。

祈っている手の絵。有名な絵です。手の平と手の平を合わせて、指がピッタリくっつかないんです。指が変形しているので、隙間が空いてちゃんと合わない。リウマチに罹った人のような手がガッと合わさって。そこに本物の・真実の友情を見た時、「俺が自分の才能で一流の画家になったんだ」という気持ちが吹き飛んだ。

本物に触れると、人間は謙遜にさせられます。本物の愛・本物の赦し・本物の祝福・本物の寛容さ。

そういうものに触れる中で、彼はまるで神々しいものを見るようにその手を見ながら。

有名な作品、彼の代表作になった『祈りの手』、調べたらすぐに出て来ると思いますよ。

キリストは人としてこの世界に来てくださった時、メッセージをして「はい、おしまい」ではなかったんですね。この方は十字架にかかって、両手両足を釘づけにされながら、肉体を自分の体重で引き裂きながら、最初に言われた事は祈りでした。

「父よ、彼らを赦してください。彼らは何をしているのか、自分で分からずにいるのです。」

この赦しの祈りの執り成しの言葉、執り成しの祈りの中に、人ではできない祈り、神にしかできない祈り、そこに真実を見る事ができるのではないのでしょうか。

人間が本当に求めてやまない本物の愛はイエス・キリストの中にある。

なので仰ったんです。「[わたしが真理だ。](#)」「わたしが最終的な答え。わたしがファイナルアンサーだ。」

3. わたしがいのちなのです。

私たちが持っている命は、永遠の命ではなくて死につつある命でしょ。今生きているとしても、あと何年か何十年かしたら死んでしまう命です。そして、天国に行く命ではないんですね。

しかし、イエス・キリストが神のいのちなので、イエス・キリストを自分の内側に迎え入れる人は、永遠のいのちがその人の内側に宿るのです。

ところで、死につつある命であったとしても、どうやってその命を保っているかという、食べる事によって生き長らえているんです。肉でも魚でも何かを食べる事によって生きています。私たちが食べるために、食べられる物は死にました。

つまり、食事というのは命を食べていると言う事ができるのです。

命を食べて命を保っているんですね。命をもらう事で、今の自分の命を保つんです。

永遠のいのちに至るためには、永遠のいのちが犠牲にされる必要がありました。

永遠のいのちを持っておられるイエス・キリストが死ぬ必要があったのです。

ところで、『聖書と福音』のリスナーからお手紙を頂き、先日4枚くらいびっしり書いてご回答差し上げました。この方、『聖書と福音』、良い番組ですね。私のようなクリスチャンでない者にも、すごくメッセージ性があっていいです」と褒めてくださって「嬉しい。嬉しい。もっと言って！」みたいな。

「しかし、」オッと来たか！これを言いたいがための枕詞「しかし」。

「私は今、人生 2 回目の聖書通読に入っています。」つまり、創世記から黙示録まで全部 1 度読んだ事がある。「番組を聞いてもう 1 度チャレンジしようと思って、創世記から順番に読んでいるけれど、旧約聖書の神様っていうのは、この番組で語られている神様と別人格のようにしか思えない。厳しい。怖い。恐ろしい。そして、なにかといえ血を要求する。レビ記を読んでいると辟易します。」“辟易”、難しい字やなと思しながら。

「繰るページ繰るページが血の注ぎかけで、皮を剥ぎとか、腎臓を取り出しとか、全部灰にしてとか、血を流し…、おびただしい血が流されてうんざりだ。」

本当に、丁寧に丹念に読んでおられますよね。ある方はバツタンって 20 ページくらいつまんで、すぐ次行く人がいます。

「なんで動物をそんなにおびただしく殺すんですか?! 神なら、それ無しでも赦す事ができるんじゃないですか?!」

私はこうお返事しました。

旧約聖書のユダヤ人は神様をそば近くに考えていました。覚えていましたよね。

そして、エジプトでの奴隷状態から脱出させられたけれど、奴隷から解放された・神様の奇跡を経験したからといって、聖人君子になるわけじゃないんです。

なんぼ神様のすごさを見たとしても、やっぱりやっちゃならん事をやってしまうし、言ってはならない事を言ってしまうし、思ってはならない事を思ってしまうし。やらかすんですよ。

神様を知らない時にやらかした罪は、それもまあ責められるかもしれませんが、神の聖さを教えられた上で、しかもやらかす。これはいけない事だと分かっているながら、それをやらかす。

それはやめなければならぬ悪い習慣だと分かっているながら、やめる事ができない。

そういう時、そういう忌まわしい事をやらかした人間の上に何が来ますか? 罪悪感です。

これがドカーンと乗って、「なんであんな事やってしまった…」「なんでこんな事言ってしまった…」

「なんでそんな事思ってしまった…」

罪責感とは罪を責める感覚ですよ。罪・責・感。

これを他の言葉で言い換えるなら、良心が検察官となって責任追及の手を緩めず、「償えよ!」と訴えている事なんです。「罰を受けろよ!」「償いをやれよ!」「弁償せえ!」

良心が自分自身に鞭打って、責め立てているんです。

この罪責感とは、「償われた」という事実を見ない限り取れないんです。

旧約聖書で、おびただしい動物がいけにえとして屠られました。それは、人間が犯した罪の身代わりとして、動物が自分の命で償いをさせられた。死んだ動物を見る事によって「ああ、償いは終わった。」

罪責感を持ちながら、前向きな人生を生きる事は出来ません。

健全な人生を生きるためには、罪責感が解消していなければならない。

その罪責感を完全に拭き去るために、神様はいけにえというシステムを提示してくださったんです。

しかし、人間の罪を動物が償う事はできません。一時的に覆っているだけなんです。

人間の罪は完全な人となったイエス・キリスト、神なのに人となられたお方、この方の犠牲によらなければ罪の赦しはないのです。

このいのちを与えるために、イエス・キリストは十字架にかかってくださったんですね。

